

---

# 茨城県内こども食堂 実態調査報告書

---



2017年2月

「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー in 茨城」実行委員会

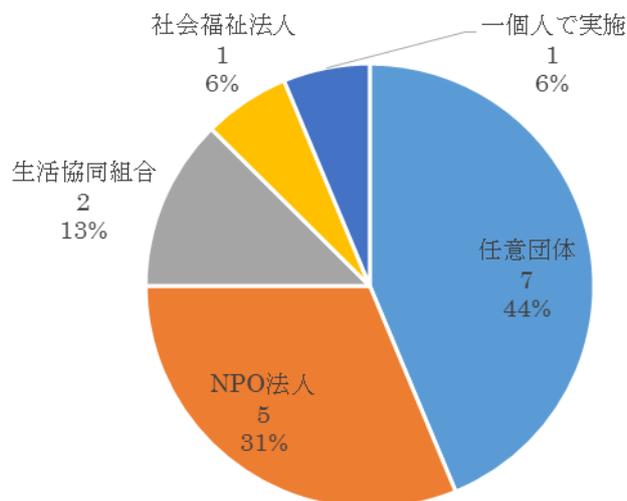
## 調査概要

目的	「広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in 茨城」開催に併せて本調査を実施することで、既に子ども食堂に取り組んでいる市民やこれからこの取り組みを行おうとする市民に対し、運営や活動の状況を具体的に共有するとともに、今後の同取り組みの支援の方向性を検討するための基礎情報とすることを目的とする。
対象	茨城県内で子ども食堂やそれに類似する活動を実施する団体 16 か所
対象期間	平成 29 年 1 月末～2 月中旬
方法	eメールや郵送などによる書面調査
主体	「広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in 茨城」実行委員会事務局 (認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ)
助成	一般財団法人 茨城県労働者福祉基金協会 (2016 年度 NPO マナビヤ事業)
回答数	10 団体
回答率	62.5%

- 公開されている情報をもとに、回答のなかった団体分も含め、一部集計に加えた。

## ① 団体情報

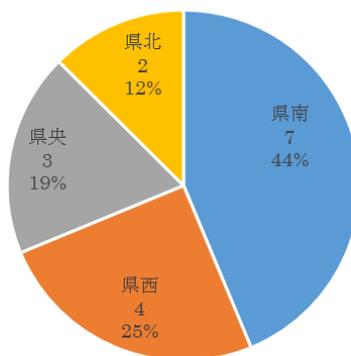
## 法人格



## 会員数

個人／団体	個人	団体
回答数	7 団体	6 団体
回答率	43.8%	37.5%
平均	17 人	1.5 団体
最大	47 人	9 団体
最小	3 人	0 団体

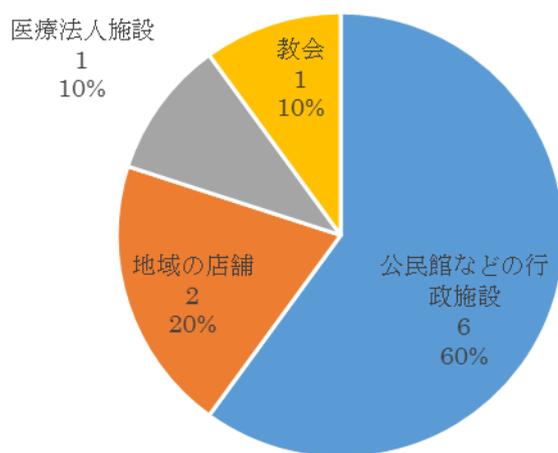
## 活動地域



## ② 活動場所

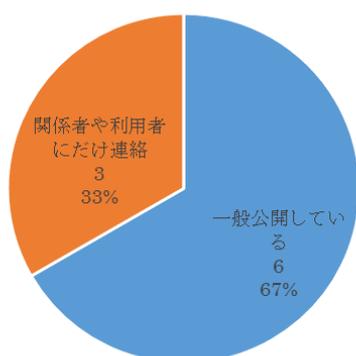
### 活動場所の種類

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



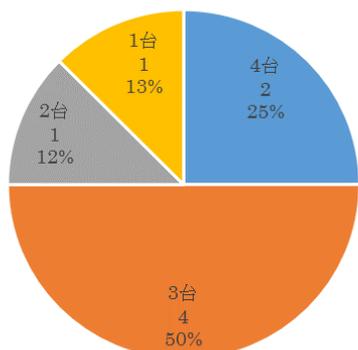
### 活動場所の情報

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



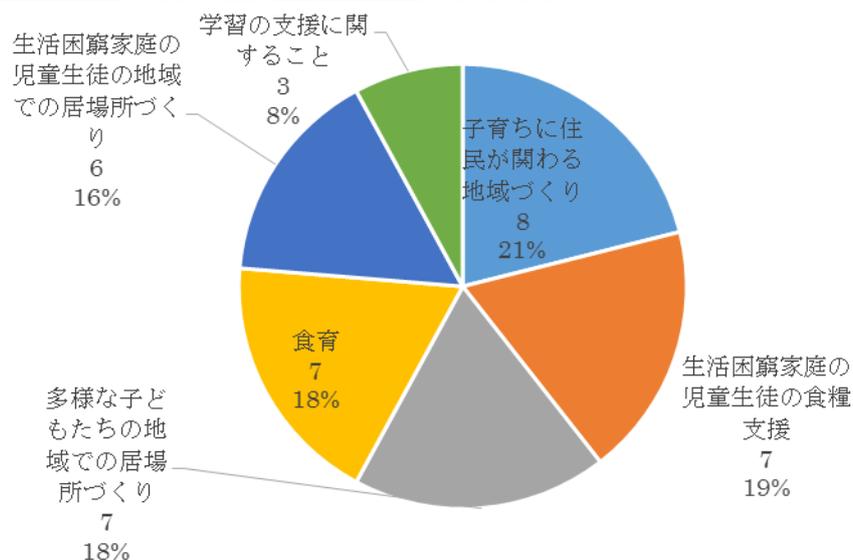
### 調理で使っているシンクの数

回答数	8 団体	回答率	50.0%
-----	------	-----	-------



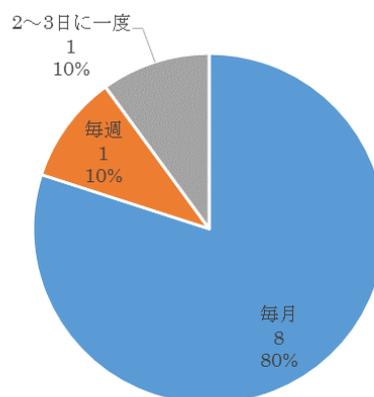
### ③ 主な活動目的(複数回答可)

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



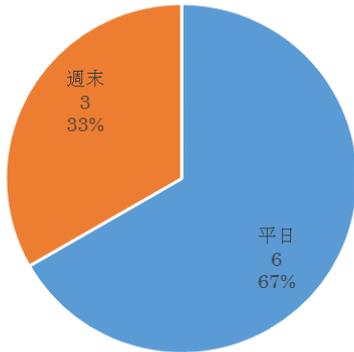
### ④ 開催頻度

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



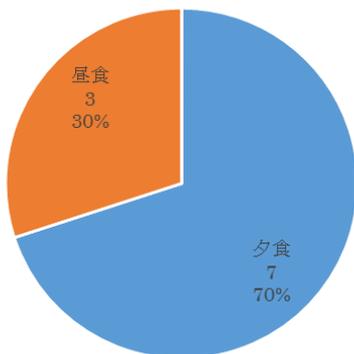
### ⑤ 開催曜日

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



### ⑥ 時間帯

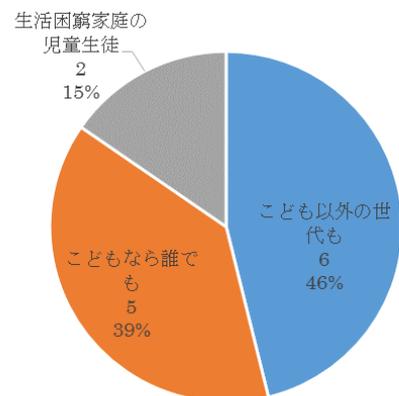
回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



### ⑦ 対象

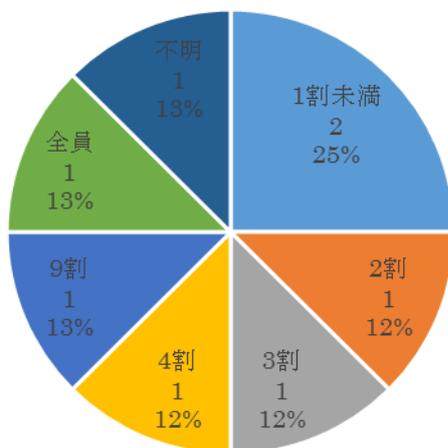
対象（複数回答可）

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



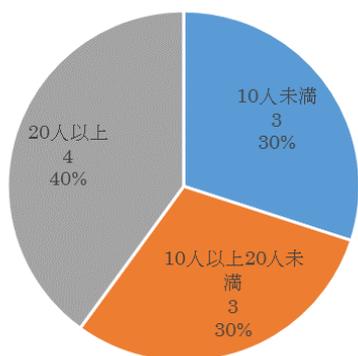
利用者のうち、生活困窮家庭の児童生徒と思われる子どもの割合

回答数	8 団体	回答率	50.0%
-----	------	-----	-------



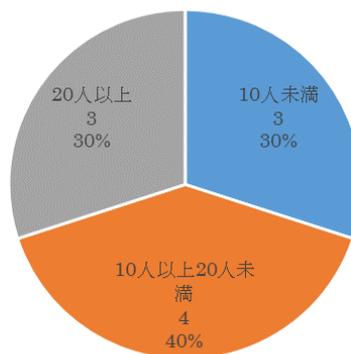
各回のこどもの平均参加人数

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



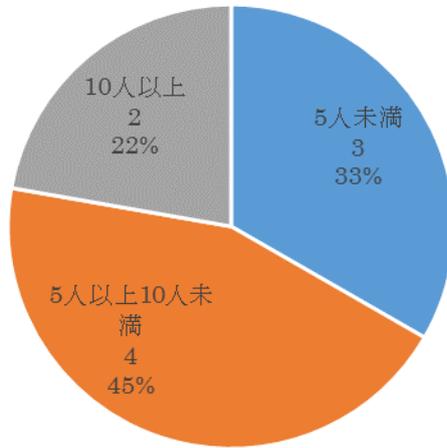
各回の子ども以外の平均参加人数

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



### ⑧ 各回の平均ボランティア人数

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



### ⑨ 主な食事の内容

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------

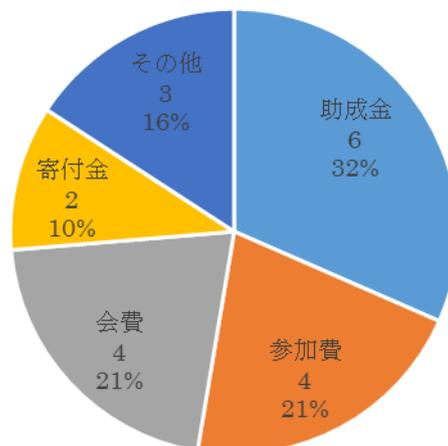
- ごはん・汁物・おかず・フルーツ・菓子（カレー・太巻き・ピラフ等）
- ごはん、主菜、副菜、香の物、汁物
- カレーライス、肉野菜炒め、オムライス
- おにぎり、おやつ
- ご飯、汁物、野菜料理、乳製品、ヤクルト
- 4 回とも週のメンバーが相談して作っている（重ならないように）
- カレー、スープ、おにぎり、ピザなど
- 地場野菜をふんだんに使った和食
- カレーライス、野菜の和え物、果物

### ⑩ 財政運営

活動財源（複数回答可）

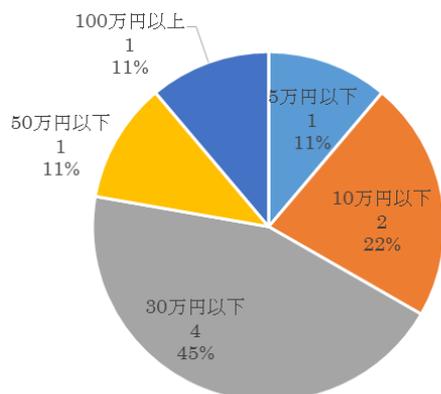
回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------

その他：物品寄付、送迎費、店舗でも売り上げ



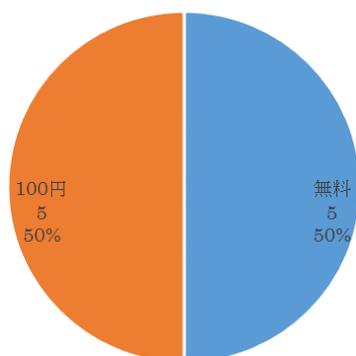
子ども食堂の活動のみで計算した場合の年間の概算事業規模

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



こどもの参加費

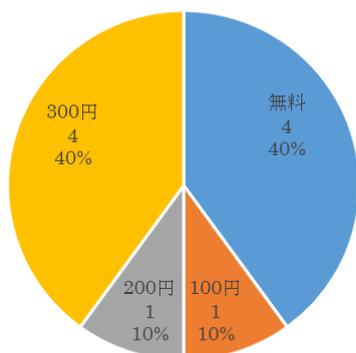
回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



その他：送迎希望者のみ 300 円

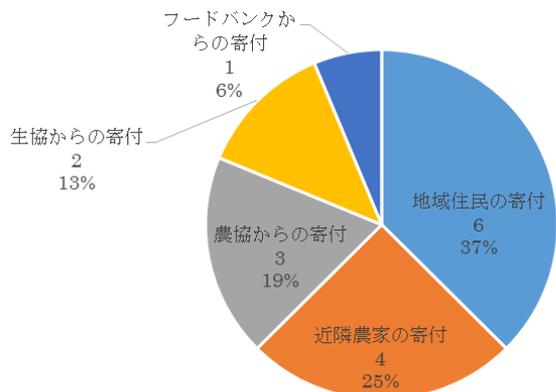
大人の参加費

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



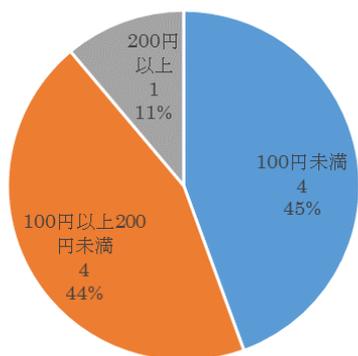
食材の調達先

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



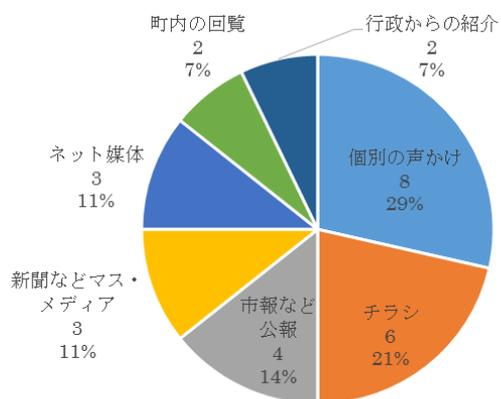
食材寄付を除いた 1 食あたりの材料費

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



⑪ 開催告知方法、こどもの集め方(複数回答可)

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------



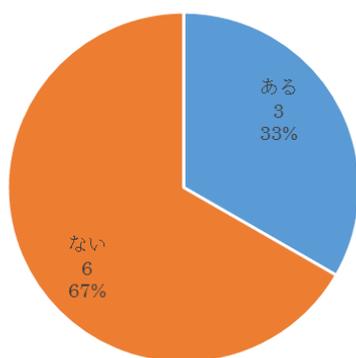
## ⑫ 連携団体と役割分担

回答数	7 団体	回答率	43.8%
-----	------	-----	-------

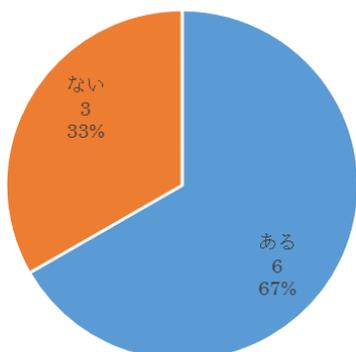
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談、チラシ配布</li> <li>● 市の子育て支援関係課や社会福祉課による周知</li> <li>● 市による後援</li> <li>● 補助（平成 29 年度～）、広報</li> </ul>
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広報協力</li> <li>● 共催または協力</li> <li>● ボランティア保険、フードバンクの紹介</li> <li>● 補助</li> </ul>
NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援団体との連携</li> <li>● フードバンクからの食品提供</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳製品企業などからの食品寄贈</li> </ul>
生協	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食材の提供、補助、運営のノウハウ情報提供</li> </ul>
農協	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コメや野菜の無償提供、農協の直売所</li> </ul>
メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広報協力</li> </ul>
大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生にボランティア・スタッフとして関わってもらっている。調理、こどもの相手、学習支援に期待している</li> </ul>
大学以外の学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校、中学校との連携</li> </ul>
自治会・町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアでの協力</li> </ul>
PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアでの協力</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● つばさの会・都都逸の会・ガールスカウト・子ども劇場など女性団体との連携</li> <li>● ライオンズクラブ、フードバンク、県や市議会議員との連携</li> <li>● 病院：開催場所提供</li> </ul>

## ⑬ 他の子ども食堂とのネットワーク

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



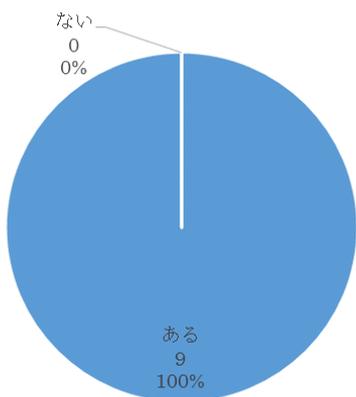
⑭ 食品衛生関係など、行っている行政機関への届け出



保健所への営業許可

⑮ 付保している保険

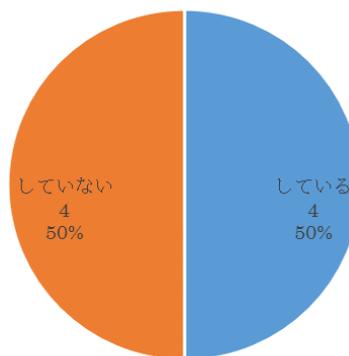
回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------



ボランティア保険、施設所有者自賠償保険、飲食物危険保償特約、スポーツ保険、組合員活動保険

⑯ アレルギーなどの対策

回答数	8 団体	回答率	50.0%
-----	------	-----	-------



個人的に聞いているだけ

## ⑰ 子ども食堂を始めたいきっかけ

回答数	9 団体	回答率	56.3%
-----	------	-----	-------

- 退職教師が無料塾を立ち上げた。その支援と地域の住民や子育て世代・高齢者の交流の場。大好きいばらき県民会議から助成受けられたこと
- 生協が目指す「誰もが安心してくらせる地域社会づくり」のために、これまで取り組んできた高齢者向けサロンの他に、地域の共食「子どもも安心して過ごせる居場所」づくりを進めようと考えた
- PTA 活動やママ友と話す中で孤育をを考えさせられる場面があり、何かできないかと始めることとなりました
- 学童保育を弊所は行っているが、そこで父子家庭のお子様を預かったことから、無料塾の必要性を感じてから、3年後に実施
- 自分の子育てが一段落した為、現在子育てや仕事に頑張る家庭や、お母さん子ども達を食の面からサポートしたいと考えた
- 地元産の豊富な農作物を、手製で調理し皆で頂く機会を家庭以外で提供したいと思った
- 地域お母さん達や世代の違う方々とコミュニティの場を作りたいと思った。
- 全国的に貧困家庭が増加している現実から目をそらさず孤食の子どもたちに温かい夕食をごちそうすることから始めた
- テレビの放送
- NHK ニュースを観ていたところ、「子ども食堂」をテーマにした特集がやっており、その存在をしりました。物があふれる豊かな時代に、貧困で食事がとれない子供達がいる事に驚愕いたしました。そして、自分にも同じ世代の子どもがおりますので、とても切ない気持ちにもなり、何か出来ないかと悩んだ末、立上げのきっかけとなりました
- 取り組みがメディアなどで取り上げられ、関心を向けていたところ、いばらきコープから実施の誘いがあった（県北エリアでの実施）

## ⑱ 子ども食堂を実施する上で大切にしていること

回答数	10 団体	回答率	62.5%
-----	-------	-----	-------

- あいさつ・季節感・行事・ごはんをメニューの主にする。自主的に片付け手伝いできるようにする
- 参加者がお客様にならないように、地域全体での自主運営を目指していること
- 誰もが安心して過ごせる居場所となる事
- 公共施設を使っていますが、気持ちは大きな家庭です
- おいしさ、栄養素のバランス、料理のバランス、食材。子どもたちが野菜を食べるように、スープのように料理して野菜感を消す工夫をしている。また、ボランティアと寄付の充実を工夫している
- 子供達の居場所としてはもちろん、と同時に、社会に通用する学力を身につけ、狭い世界から広い視野を持てるよう情報を取ることによって自信をつけさせてあげたいと思っている
- 安心安全、衛生管理
- 来て頂いた方と食堂スタッフの近距離感
- 「安価な食堂」や「イベント」では無く「日常の一食になる事」を望み、ステイタスを持つこと
- 手製の食事を提供する
- ほっとした温かい心で帰れるように心がける
- 個人的情報は秘密保持する
- 会員のチームワーク作りを大切にする
- どの子どもも同じように接すること
- 私たち主催者側が、日常生活に無理のない活動計画で、尚且つ長期的に確実に開催できること
- 参加者が職や交流を通じてくつろげる居場所づくり
- 食育（地元の野菜など）

## ⑲ 子ども食堂を始めて良かったと思うこと

回答数	8 団体	回答率	50.0%
-----	------	-----	-------

- 先生や子どもたちから喜ばれる。スタッフや利用者と情報交換できる
- 一言、子どもが喜んでいる
- 最初は、能面のような表情の子供達が、だんだん屈託無い笑顔を見せてくれるようになってきたことや、話しかけてくれるようになってきていることなど、また、不登校だった子が、学校に行けるようになったことなど、子

- 供達の成長、変化を見ているとやってよかったと実感している
- 集客策が足りず、まだ僅かなお客様数の為スタッフがお客様と一緒に食事をしてお話を伺う事が出来ます。初めて来店される方でも、開催や取組を喜んで下さり、必要とされている実感を得ることが出来ます。
- 子育てが一段落したお母さん達は、ボランティアを望んでいたがその先を探していた。調理手段のボランティアの機会を得て、お母さん達の居場所の1ヶ所になれたこと
- 来店する子どもたちの表情が明るくなってきたし同伴する母親もホッと出来るといってくれてうれしい
- 会員たちの仲間意識が深まって来たしやりがいを感じつつある
- いろいろな方面でご協力者が増え、こども劇場や紙芝居などもボランティアで来てくださること
- 始めてみると、子育て世代の若いママさん達の利用が多く、貧困！？と、いうよりは、子育て応援！！と、いう感じで楽しくもあり、ボランティア側も若い世代と関わる事で刺激にもなり、また、逆にボランティア側の居場所にもなって来ています
- ボランティアと参加者、参加者同士の交流が、世代を超えて深まった

## ⑳ こども食堂を通じて印象に残っているエピソード

回答数 9団体 回答率 56.3%

- 食事する各テーブルに自宅から野の花を持ってきて飾っていた。子どもが花のあるところに座るんだよ！と新しい人に案内してくれたこと
- 洗い物を進んでやってくれた男子
- 重陽の節句に困んだ菊の菓子をもったいない！きれい！と大事にそうに持って帰った女子
- 参加している人たちが顔見知りになりハイタッチして挨拶しあっていること
- 学習支援をしてきている高校生が食器運びや配膳も積極的に協力してくれていること
- おばあ様世代のボランティアさんに3さいの子どもが「美味しかった」とボランティアさんも泣きそうなほど喜んでいて
- 長く学校に行っていなかった子が、うちに来出して、4ヶ月目に学校に行き出してくれたことが、とても嬉しい
- 50代男のお客様がお1人で来店されました。お手製の野菜中心の食事をとても喜んで下さり、また食堂の主旨に賛同もしてくれました。お帰りになる際、「この食事を家に居るおふくろにも食べさせたいな」とおっしゃいました。きっと幼少の頃からお母様が一生懸命食事を作り、食べさせてくれたのでしょう。その想い出はやがてこの様な親孝行な優しいお気持ちを生むのだと教わりました
- 偏食のある4才の男の子が始めてシチューを食べたと母親が喜んでいて
- 6~7kmを自転車で食べに来る子どもがいるので、ごはんをたくさん食べてもらうように持たせたことです
- 利用者さんから、「子供が食べられなかった野菜を食べてくれた！！」、「私も子供も、ラッキョウ！を、初めて食べました。」、「美味しかったので料理のレシピを教えてください。」など、言葉を頂き嬉しかったです
- 食材を提供してくれている近隣農家が、参加者（子どもたち）に食の大切さの話を聞かせてくれた

## ㉑ 団体や個人として、意識が変化したこと

回答数 8団体 回答率 50.0%

- 継続に何が必要か個々で考えてくれるようになった
- さらに必要性を感じる
- もっと学習に入るまでに、時間をかけないとならないかと思っていたが、だんだんすんなり学習に入ることが、できるようになったことが意外だった
- 人の一食を作るのは、誰が作って食べさせても良いと思えた
- 人の繋がりには、縦横・斜めの関係の人がおりどの関係性の人でも、一助になれると感じた。
- 子どもたちの置かれている場所は不安定な環境であり、増々心のよりどころのない子どもたちが多くなることを実感し、やりがいのある活動だと強く思うようになった
- 自分の子どもを育てるときにはわからなかったことが、子どもたちを通して社会全体を見るようになりました
- 調理の際に、ボランティアさん達は、自宅で調理する感覚で気軽に取り組んでいましたが、利用者さんが増えるごとに、事故防止、衛生

- 管理の意識が高まってきた事
- 高校生などの若い世代も「子どもの貧困」といった社会現象を重くとらえ、ボランティア

として参加、協力してくれており、心強く感じている

## ②② 子ども食堂を実施する上で、社会的に課題と感じていること

回答数 9 団体      回答率 56.3%

- 気兼ねなく利用してもらうためにはどのような PR すればよいか。貧困を前面に出すわけにはいかない。いじめにつながる
- 子ども食堂はきっかけであり、地域のコミュニティづくりに地域住民の方々が問題意識を持つことが大切である
- みんな、子どもの事を大切に思っているので、仲良く進んでいきたいです
- 現在、NPO で運営しているため、市が行なっている事業ではない、ということで、交流センターも有料でお借りしている。どこが運営していようと、事業内容を精査した上で、考慮していただけたらと思っている。また、これを全国的に広げるためには、行政との連携が必要であるが、現状はまだ市としては、理解が少ないと思う
- 本当に困っている家族に届ける為、アプローチの仕方
- 口コミの PR なのでなかなか来店客が増えないので地道な PR をしていくこと そして地域の人々の意識が変わっていくことが大事と思う
- やはり市行政の協力が必要
- 地域性が大きく影響していると思いますが、子供食堂＝貧困と、イメージされがちなので、地方の小人口地域では、本当に利用したい方が利用しづらい状態だと思います
- 今のところ特にありません

## ②③ 子ども食堂を実施する上で運営面で課題と感じていること

回答数 10 団体      回答率 62.5%

- 人・物・金
- 主体的に関わる人を増やす努力を生協や行政、社協など力を合わせていくことが必要
- まだまだ、これからなので、課題だらけです
- 必要な子供に如何に届けることができるか
- この市の地で、学習支援を行なっていくには、マンパワーがやはり必要。現在は、弊社の少人数でサポートしていることがほとんどだったが、今年に入って、おにぎりを握ってくれる女性経営者団体などがサポートをしてくれるようになって来た。しかし、送迎ボランティアや学習指導ボランティアが不足している
- ことや、人件費や車両代などの負担もあるので、運営費を安定して確保することは、課題である
- 運営資金
- 顧客の集客（来て欲しい顧客へのアプローチ）
- 補助金は今年度 1 回限りなので寄付金を集めることが頭痛いところである
- 食材の確保が第一
- ボランティア会員を増やして行きたいです
- 差別感なく、いかに本来の参加者（生活困窮世帯の子など）を利用につなげるか

## ②④ 子ども食堂以外に併せて行っている活動

回答数 9 団体      回答率 56.3%

- 男女共同参画 市と連携し大人の社会科見学等実施
- 学校や幼稚園に向けた食育教室（年間約 40 ケ所）、その他に減災・環境教室。 協力：茨城県生涯学習課
- 茨城県の農業を応援する「茨城をたべよう！キッズ・マルシェ」 協力：JA グループ、茨城県農林水産部
- 学習支援活動、自由活動
- 福祉施設へのボランティア（ミュージックケアなど）の訪問
- 小学生対象の学童クラブを元々から運営中。
- 今後の希望として、学習支援をされている団体の活動日に 1 食（昼または夜食）を提供する事。食事の前後に読み聞かせや食育 WS を実施したいと希望しています
- 子どもと学生ボランティア、交流のためのボランティアなどとの交流の時間を設けている